

## 西東京市立中原小学校建替協議会

### 第2回会議ワークシート 集計結果

#### 1 概要

- (1) 対象 西東京市立中原小学校建替協議会全員
- (2) 方法 第2回建替協議会においてワークシートを各委員に配布  
郵送等により提出
- (3) 回答者数 10人(提出率91% 小数点第一位を四捨五入)

#### 2 回答

【質問】 建替校の将来像について、本日の会議内容等を踏まえ、考えたことや感じたことなどをご記入ください。

委員名	内 容
A	建替にあたってのコンセプトを明確にしていく話し合いの継続が必要だと感じました。 Key Wordを出し、そこから連想すること、漢字一文字で表現していくことなども行えたら と考えます。
B	温かみのある学校になるといいなと思います。学校に行くのが楽しくなるようなデザイン になってほしいです。(オープンなスペース?採光?色合い?仕掛け?やり方はいろいろ ありますが…) 飼育小屋をどうするかは、ぜひ子どもたちにも意見を聞いてあげてほしいです。 命を育てることの大切さ(と大切さ)を考えるいい機会になると思います。 個人的には飼育小屋も立派に建て替わるといいなと思いますが予算はないかな? スペースは限られますが、地域の防災拠点でもあるので、収納スペースをたくさん作っ たり(たたみや階段の下が収納だったりってよく住宅ではありますよね!）、校庭に公園 によくある災害時にかまどやトイレになるベンチをおいたりできるといいなと思います。
C	校舎では、残したい所はほとんどなく、改善点の方がたくさんあると思いました。 校長先生の話で出た屋上で50m 走の測定が出来るようになっていたという学校には、 とても魅力を感じました。
D	学校と地域の連携・協働が今以上に必要になると考える。 今回の会議では、一般の委員が5名、少人数でまとまりやすいが、活発な意見が出な かった様に感じた。

E	<p>建替校の将来像について 様々な意見を分類し、骨子を明確にするとよい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これからの教育を考えた環境作り       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どのような教育カリキュラムを考えるか</li> <li>(2) 教育カリキュラムに対応した教育環境</li> </ol> </li> <li>2. 校舎・校庭などの有効利用       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 放課後・休日・長期休暇の在校生への利用</li> <li>(2) 地域への開放</li> </ol> </li> <li>3. 防災拠点としての設備       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 災害時の防災拠点としての機能を備えた設備</li> </ol> </li> <li>4. その他       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境に配慮した校舎作り</li> <li>(2) デザイン性の高い芸術的校舎</li> <li>(3) ビオトープ等教育施設</li> </ol> </li> </ol>
F	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい校舎は少なくとも 50 年間は建替えなしと言われています。これからの将来は激変流動の社会である。6・3・3制も変わるかもしれない。したがって、基礎の部分は 50 年以上耐えられる構造とし、その他の部分はその時代の教育の課題に対応できるような柔軟な造りとする。</li> <li>2. 国際化、個に応じた教育、課題解決型教育などこれからは正規の教員だけでなく課題に応じた指導者が多く出入りする。したがって、現在の職員室の大きさ以上のゆとりのあるスペースを設計の段階から重視しておく。</li> <li>3. 小学校は大人になってもなぜか心に残るようである。その一つに校舎の思い出が圧倒的に多い。大人になっても小学校の校舎を自慢する話を聞く。個性ある教育は個性ある校舎、白色の長方形的な箱型の校舎でなく少なくとも玄関や通用門は個性的でありたい。例えば玄関にはステンドグラスを設置するなどの低予算でも印象に残る学校とする手法がある。</li> <li>4. これからの教育は座学型ではなく、どの強化もコミュニケーションを取り入れた動的な教育が主流となることは確実、教室も廊下もゆとりのあるスペースを設計の段階から考慮しておく。</li> <li>5. UR 周辺は緑が多い。これとマッチするような環境づくりがこの学校の特色となることが考えられる。</li> <li>6. 地震などの対応や地域との連携なども課題である。</li> </ol>
G	<p>自然と体力が身につく遊具・伸び伸び出来る緑の空間などが充実した学校を作っていきたいと思いました。</p> <p>また同じ土地に学校が建つので、そのままの形で何か残して欲しい(校門の表札・池の前の大きな木など)。卒業し、新しい校舎を訪れた時になつかしい物があると嬉しいのではと思いました。</p>
H	<p>障がい者に対して普通に接することができる優しい子供たちになっていてもらいたい。つくしさんとの交流はとても大切なことだと思います。</p>

I	<p>会議で出された屋上緑化、アルプス山のような子どもの遊びの幅が広がる遊具や体力向上の為の遊具の設置、つくし学級との交流で自分を大切にし、他人もそれ以上に大切にできる心の教育も中原小に大切と思っている。が、それ以前に中原小の将来像としては、建替え後、50年経っても地域に愛され、地域の核として機能する学校であってほしい。その為には、自分の家の子どもが在学していなくても学校を利用し、学校を皆の物として大切にしたい。その結果として繋がりのある災害や防犯に強く温かな街づくりができると思う。</p> <p>具体的には、大人も子どもも学べる場として学校を考え、将来的には、また子どもの数が減少すると思うので、昼間も大人たちが学習の場として空いたスペースを使えるようあらかじめ、教室棟の配置に工夫しておく。放課後の子どもたちの居場所としても学校が使えると有難い。(学童や中高生も含めた勉強のスペース。)また、図書室も地域に開かれていると年配の方々には、有難いのではないだろうか。つまりは、人里離れた山の中の小学校が、色々な施設を兼ねているようなそんな学校こそが、これからの時代、人を本当の意味で育むには大切になってくるのではないのでしょうか。</p>
J	<p>災害用の備蓄食品をしまえるような場所を作ってほしいです。</p> <p>中原小周辺はマンション建設がすすみ、今後児童数も増えると思うので、新校舎の敷地内に学童クラブを作って欲しい。(→保護者からの意見、多数)</p>

## 西東京市立中原小学校建替協議会 第2回会議ワークシート

本日の建替協議会では、建替校の将来像について、「中原小学校の良いところ、残したいところ、改善したいところ」というテーマでディスカッションを行いました。

事務局からの説明やディスカッションを踏まえた建替校の将来像について、以下のアンケートに御回答をお願いいたします。

Q. 建替校の将来像について、本日の会議内容等を踏まえ、考えたことや感じたことなどをご記入ください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
-------------------------------------

御回答ありがとうございました。

お手数ですが、平成28年1月15日(金)までに返信用封筒を用いて事務局までお送りいただくか、FAX (042-423-2872) 等にて御回答ください。

平成 年 月 日

西東京市立中原小学校建替協議会委員

氏名 \_\_\_\_\_

(氏名は提出確認のために使用します。集計結果には掲載されません。)